



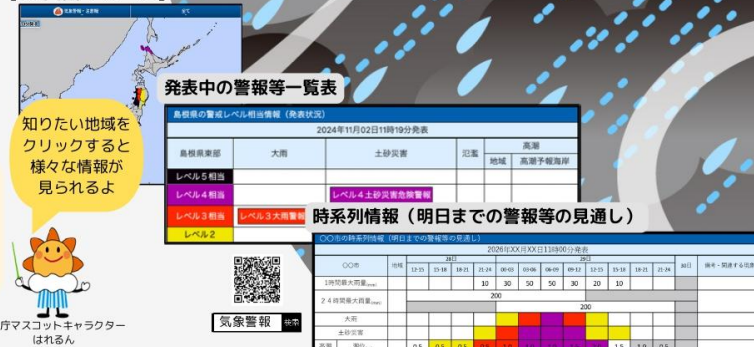
スマホやPCで確認！ 防災気象情報のチェック方法

気象庁では、大雨などの災害リスクが高まるときに、「警報」などの防災気象情報を発信しています。気象庁ホームページでは、これらの避難の判断に役立つ情報を自ら確認することができます。

主な情報の種類

- ◎気象警報・注意報（大雨・土砂災害・氾濫・高潮など）
- ◎時系列情報（明日までの警報等の見通し）
- ◎早期注意情報 → 災害の兆しを早めにお知らせ
- ◎キキクル → ※裏面参照など

【PC画面イメージ】



情報が出たら、どう動く？

～色とレベルでわかる「避難のタイミング」～

図は、災害が発生するまでに出来る「防災気象情報」と行動の例の関係を時間の流れのイメージに沿って表したものです。災害の危険が高まると、レベル1～5の情報が順次発表され、各レベルに応じて、とるべき行動も変わります。

避難するタイミングは 「レベル3」と「レベル4」

「レベル3」は高齢者など避難に時間がかかる人は避難を。
「レベル4」は全員が避難するタイミングです。
「レベル5」はすでに命の危険が迫っている状態です。

キキクルなどで情報をチェックし、早めの行動を心掛けてください。

時間推移のイメージ

数日～1日前

半日～数時間前

数時間～3時間前

2時間～0時間前

災害発生

レベル1 早期注意情報	・災害への心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認する
レベル2 注意報	・ハザードマップ等で災害リスクを再確認する ・自治体から発表される避難情報の把握手段を再確認する
レベル3 警報	・避難に時間がかかる高齢者等は危険な場所から避難する ・高齢者等以外の人も必要に応じて避難の準備や自主避難
レベル4 危険警報	・危険な場所から全員避難する ※台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了
レベル5 特別警報	・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況 ・今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する

8月13日、千葉県北西部を中心に記録的な大雨（令和8年千葉豪雨）により、被害にあわれた皆さんにお見舞い申し上げます。なお、復旧作業等を行う際には、熱中症予防など、身の安全を守りながら行うようにして下さい。

気象庁は「防災気象情報の運用を見直しから初めてレベル5の大雨と土砂災害の特別警報が発表」しました。気象庁では、災害ごとにバラバラだった名称を統一しています。しかし、最近の異常気象で警報がその都度出され、「警報慣れ」していることが懸念されています。重要なことは、「警報が出された時点で、自らの判断で最善の安全確保行動をとること」です。

政府広報YouTubeでは、防災気象情報について分かりやすく説明しています。（右下のQRコード参照）

レベルの数字と色で、取るべき行動の目安がわかりやすくなっているのがポイントです！

